

1 学校教育目標

平和で豊かな社会の形成者となるにふさわしい人格の完成をめざし、全人教育を基礎として、生徒一人一人の能力・適性の伸長と創造的活力の育成に努める。

- (1) 勤労と責任を重んじ、社会の進展に貢献する実践力を培う。
- (2) 自主自立の気風を喚起し、進んで創意工夫する態度を養う。
- (3) 礼儀と協和を尊び、健康で明朗な心身の発達に努める。

2 学校の特色

- (1) 多様な生徒の能力・適性に対応した自由選択科目を設置するとともに習熟度別学習指導を取り入れるなど、生徒各自が自己実現に向けて取り組めるよう、きめの細かい指導に努めている。
- (2) 婦中地区の行事のお手伝いや奉仕活動などのボランティア活動を実施し、地域との交流を深め、社会貢献への意識や福祉活動への関心を高めている。
- (3) 国際交流海外派遣事業を推進し、国際社会に適応できる生徒の育成に努めている。
- (4) 生徒の自主性・積極性を伸ばすために部活動を積極的に奨励している。特に、フェンシング部は輝かしい伝統と実績を誇っている。

3 学校の現状と課題

- (1) 本校生徒は、概ね温和で純朴であり、真面目に学校生活を送っている。しかし、積極性に欠け、主体的に行動し、取り組もうとする意欲に乏しい生徒や、自己の将来に対する展望が持てないまま学校生活を送っている生徒も見受けられる。
- (2) 日常的な声かけや継続的な指導により、規律やマナーの向上が見られるが、悩みを抱えた生徒も少なからずいる。教師からの一方的な指導ではなく、生徒の心に寄り添った双方向の指導に努め、自己肯定感を高めさせることが必要である。そのためには、生徒や保護者とのコミュニケーションを密にし、より深い信頼関係を築かなければならない。カウンセラー等の外部機関との連携の必要性も高まっている。
- (3) 学習に対する意欲や自信を持たない生徒が見受けられる。数学や英語における習熟度別学習指導など、学習体験を積み重ねながら生徒に自信を持たせ、意欲を向上させて自主的に学習できるよう促していくことが必要である。
- (4) 本校生徒の進路希望先は多岐にわたっている。進路指導に係る行事を数多く設定するとともに、それらの行事を生かして、主体的に進路を選択するよう生徒に促すことが必要である。また、基礎学力の定着や人格形成のためのキャリア教育を充実させ、生徒が将来、社会人として立派に働いていけるよう指導していくことが大切である。

令和5年度 学校教育計画

項目		目標及び計画	
1	授業力の向上 重点1	目標	○多様な生徒に即応し、学習意欲を向上させるために、各自の授業を見直し、指導内容や方法を工夫する。 ○ICT機器を利用したオンライン授業を益々発展させる。
		計画	○他の教員の授業を参観しやすくするため、互見授業週間を設定し、学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。 ○生徒個人用タブレット活用講習会を開催し、質の高い授業を展開できるように努めるとともに、ICT機器を活用した授業展開例などを教員間で共有する。
2	学校生活 重点2	目標	○規則正しい生活習慣の確立と社会性を身につけさせるとともに、実社会に適応・活躍するための常識と品性を備えた生徒を育成する。
		計画	○規則正しい生活習慣を身に付けさせ、遅刻・早退・欠席の減少に取り組む。 ○生活実態調査を実施し、ネットトラブルについての状況を確認・把握するとともに、該当生徒については個別に注意喚起を行い、未然防止に努める。 ○本校の実態に即した内容で外部講師による講演会を開催するとともに、全校(学年)集会時の呼びかけを強化し、SNS等の正しい使用について理解を深めさせる。
		目標	○保健だより等を通して、健康と安全について理解を深めさせ、基本的な生活習慣の見直しと改善に取り組ませる。
		計画	○基本的な生活習慣を見直すために、「夜11時までの就寝」「毎朝、朝食を摂って登校」を重点にして、生活改善を図っていく。 ○保健委員会と協力して、楽しい雰囲気を取り組めるよう工夫するとともに、保健だより等を通して生活改善の必要性を説いていく。
3	進路支援 重点3	目標	○進路意識や目標をできるだけ早く持たせ、学習に対する主体性や積極性を育てる。 ○資格取得をきっかけに主体的に学習に取り組む姿勢を育て、進路決定に役立てる。 ○読書等によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげる。
		計画	○進路講演会や進路ガイダンス等を1、2年生で段階的に実施し、進路意識や進路目標をできるだけ早く持たせる。 ○進学・就職において評価対象となる各種資格取得を奨励し、各種検定試験の適切な受験級・日程・対策方法などの情報を適宜伝え、受験に取り組ませる。 ○「手話を通して福祉を考える」ことをテーマに、読書・教養講座を3回に分けて実施し、福祉関係の仕事を目指している生徒や、手話に関心のある生徒等の自主的参加を促し、将来の自分の進路に生かす。
4	特別活動 重点4	目標	○部活動に目標を持って意欲的に取り組む生徒を増やし、部活動の活性化を図る。 ○ボランティア活動を通じて自主的、自律的な態度を育て、社会に適応し活躍できる生徒を育成する。
		計画	○部活動達成目標個人カードを作り、年度初めに達成可能な明確な目標を立てさせる。そして、年度末にその目標が達成できたかできなかったか自己評価させ、来年度への問題点等を認識させる。 ○それぞれのボランティア活動の内容に応じて生徒の自主性・積極性を養うよう配慮するとともに地域社会の一員としての社会性と奉仕の精神を育成する。 ○ボランティア活動に関わる情報を速やかに生徒に伝え、できる限り多くの生徒が参加できる体制を整える。
5	その他 重点5	目標	○コロナ禍において停滞したPTAの各種活動を充実させ、活性化を図るとともに、保護者等に学校の様子を周知するため、ホームページの一層の充実を図る。
		計画	○PTA総会や保護者会を通して、PTAへの理解を深めてもらい、PTA役員会への参加を働きかける。 ○学校行事やPTA活動の記事などを、機会を捉えてにホームページに掲載する。

今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 富山西高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	授業力の向上
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に即応し、学習意欲を向上させるために、各自の授業を見直し、指導内容や方法を工夫する。 ICT 機器を活用した授業展開を工夫し、ますます発展させる。 タブレットを用いた授業展開について、研究する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する意欲や自信を持ってない生徒が見受けられる。また、普段の家庭学習習慣が十分に身につけていない生徒が見受けられる。一方、上級学校への進学に向けて、積極的に課題に取り組む生徒もいる。 各教室にプロジェクターが設置され、それらを活用した授業も数多く実施されるようになった。昨年度、ICT 機器を使った授業を実施した教員の割合は90%を越えたが、ますます活用させていきたい。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業参観を実施した教員の割合 50%以上 ICT 機器を使った授業を実施した教員の割合 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員の授業を参観しやすくするため、互見授業週間を設定する。 全教員が教科の枠を取り払い、互見授業に意欲的に取り組み、学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。また、単に授業を見るのではなく、見た後のディスカッションも実施するようにしたい。 ICT 活用研修会を数多く実施し、生徒が興味・関心を引くような質の高い授業を展開できるように努める。また、ICT 機器を活用した授業展開例などを教員間で共有し、今後の授業への参考になるようにする。

令和5年度 富山西高校アクションプラン - 2 -					
重点項目	学校生活				
重点課題	規則正しい生活習慣の確立と社会性を身につけさせる				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の使用に関連したネットトラブルの発生が危惧される。 朝から元気がなく、授業に集中できない生徒がいる。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>SNS 利用について理解を深めた生徒の割合</td> <td>「夜 11 時までに就寝」の生徒の割合 「毎朝、朝食を摂って登校」の生徒の割合</td> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>「夜 11 時までに就寝」50%以上 「毎朝、朝食を摂って登校」80%以上</td> </tr> </table>	SNS 利用について理解を深めた生徒の割合	「夜 11 時までに就寝」の生徒の割合 「毎朝、朝食を摂って登校」の生徒の割合	60%以上	「夜 11 時までに就寝」50%以上 「毎朝、朝食を摂って登校」80%以上
SNS 利用について理解を深めた生徒の割合	「夜 11 時までに就寝」の生徒の割合 「毎朝、朝食を摂って登校」の生徒の割合				
60%以上	「夜 11 時までに就寝」50%以上 「毎朝、朝食を摂って登校」80%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査を実施し、ネットトラブルについての状況を確認・把握するとともに、該当生徒については個別に注意喚起を行い、未然防止に努める。 本校の実態に即した内容で外部講師による講演会を開催するとともに、全校（学年）集会時の呼びかけを強化し、SNS 等の正しい使用について理解を深めさせる。 「取り組み週間」を設定して、普段の生活を見直すよう働きかける。 保健委員会と協力して、楽しい雰囲気で行き届くように工夫する。 保健だより等を通して、生活改善の必要性を説く。 				

重点項目	進路支援				
重点課題	①進路意識や目標をできるだけ早く持たせ、学習に対する主体性や積極性を育てる。 ②資格取得をきっかけに主体的に学習に取り組む姿勢を育て、進路決定に役立てる。 ③読書等によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげる。				
現 状	自己の進路に対する意識が希薄で進路目標を設定することがぎりぎりまでできない。そのため、進路実現へ向けた具体的な方策を各自で立て実施する時間の確保が難しくなり、3年次における面接や小論文などの受験指導に時間がかかってしまう。				
達成目標	①キャリアガイダンスによって、自身の進路選択や進路目標が明確になった生徒の割合			③「手話を通して福祉を考える 読書・教養講座」が、進路を考える上で有意義だったと答えた生徒の割合	
	1 年生	50%	2 年生		80%
	②漢字検定・英語検定など、1年生で1種類、2・3年生で2種類以上の取得を目標とする。資格取得生徒の割合				
	1 年生	2 年生			3 年生
	40%	1 種類 50%	2 種類 20%	2 種類 40%	80%
方 策	① ・進路講演会や進路ガイダンスなどを1, 2年生で段階的に実施し、進路意識をできるだけ早く持たせ、進路目標を徐々に確立できるようにさせる。 ・進路目標を達成するためには、主体的に積極的に学習に取り組むことが必要であることを、これらの活動を通して明確にさせる。 ② ・各種資格が本人の強みとなることを生徒に周知させる。 ・各種検定試験の適切な受験級・日程・対策方法などの情報を適宜生徒に伝え、受験を奨励する。 ・朝学習で受験指導をしたり、希望生徒を対象に、個別またはグループでの指導を添削・授業形式などで行ったりする。 ③ 今年度は、新聞活用講座がとりこぼしている層（小論文や面接を必要としない、専門学校等を志望している層）に焦点をあてる。「手話を通して福祉を考える」ことをテーマに、読書・教養講座を3回に分けて実施し、福祉関係の仕事を志望している生徒や、手話に関心のある生徒等の自主的参加を促してゆく。富山県聴覚障害者協会を通して指導を受け、最終的には聴覚障害者の方と、実際に手話を通して会話し、福祉について伺い、考えることを目標とする。				

令和5年度 富山西高校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動への積極的な参加を促しながら、目標を持って取り組む生徒を増やし、部活動の活性化を目指す。 ボランティア活動を通じて自主的、自律的な態度を育てる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に活動している生徒もいるが、目標もなく活動意欲にやや欠ける生徒も多い。 ・各学校行事やボランティア活動に一生懸命に参加する生徒がいる一方で、活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。 	
達成目標	部活動個人達成目標が達成できた生徒	ボランティア活動に参加した生徒
	60%以上	30%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動達成目標個人カードを作り、年度初めに達成可能な明確な目標を立てさせる。そして、年度末にその目標が達成できたかできなかったか自己評価させ、来年度への問題点等を認識させる。 ・様々な機会を捉えて部活動の意義を認識させ、退部者には他部への再加入を促すとともに、途中からの加入も積極的に指導していく。 ・ボランティア活動に関わる情報を速やかに生徒に伝え、できる限り多くの生徒が参加できる体制を整える。 	

令和5年度 富山西高校アクションプラン - 5 -		
重点項目	その他	
重点課題	<p>コロナ禍以前のように活気のある本校PTA活動を回復させ、PTA役員相互の連携を密にし活性化を取り戻す。</p> <p>生徒の活動や本校の活動をより多くの保護者や中学生等に知ってもらえるようホームページの一層の充実を図る。</p>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・社会状況を十分配慮しながらPTA活動を計画しなければならない。またPTA役員となっても会合に一度も出席できない保護者も若干いる。 ・教育・安全情報サービスで、様々な情報は流すものの、行事の内容を詳細に伝えることやビジュアル的に訴えることはできない。 	
達成目標	PTAに関わる会合の実施回数	ホームページの記事等のアップ回数
	12回以上	36回以上（月平均3回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会や保護者会等を通して、PTAへの理解を深めてもらい、PTA役員会への参加を働きかける。 ・学校行事やPTAの活躍の記事などを、機会を捉えてホームページに掲載する。 	